
TRIGGER

Astute

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

TRIGGER

【Nコード】

N0831T

【作者名】

Astute

【あらすじ】

つべこべ言わずに、撃ってみろ。

気付いた時には、私はこの右手に銃を握って立っていた。

意識はしていない。

しかし、下を向いていた右手は意識に抗い上へ上へと向きを変えていく。

逆らえない。

言い知れぬ恐怖が背筋を駆け巡る。

何故こんな事になっているのか、勿論分かるはずもない。

何故なら、気が付いた時には周りは暗く蒼い、狭い空間以外存在していなかったのだから。

私は混乱に頭を抱えた。暫くして、視界に淡くゆっくりと、人影が写り込んだ。――紛れもなくそれは、私の友人、だった。

そう、辛い事も楽しい事も一緒に過ごしてきた、信頼できる仲間。

――だった。

数分前。

ほんの些細な言葉が彼女を傷つけてしまった。

だが、譲れない性分から素直になることは出来なかった。

やがて彼女も私を酷く汚い言葉で罵り始める。

私が悪い。それは痛いほど分かっていた。それなのに、つい熱くなつた私は彼女に言い返した。それは更に彼女の神経を逆撫でしてしまう。

音。

嫌な、音だ。

亀裂がゆらりゆらりと、音を立てながら入ってゆく。

ああ、もう戻れない。

かけがえのない友人を失う切っ掛けを作った自分が恨めしい。

時計の針を戻すことは出来る。

人の心は戻せない。

一度入った罅^{ひび}を後からどんなに綺麗にと、美しくと取り繕っても、必ず醜い痕が残る。

後悔の念だ。

目の前に立つ彼女は笑っていた。

この僅かな空間に木霊する、狂気混じりの高笑い。

彼女も銃を握って、立っていた。

徐々に、しかし確実に二人の距離は詰まっていく。

そして――こちらに銃口が向けられた。

ハンマー
撃鉄の音がする。

彼女は撃つ体勢を整えた。

紅く虚ろなその瞳にもはや迷いや躊躇いなど見受けられない。

冷たい鉄の引き金に、白い素肌が佇む人差し指を置く。

二人は、銃口を互いに向け合うような体勢になっていた。

嫌だ。

彼女を撃ちたくなてない。

それでも意識に反して彼女と同じように引き金に指をかけてしまう。

あまりにも現実離れしていた光景は漠然とした恐怖に変わり私を蝕んでいく。

どうすればいい。

どこで間違った。

どうすれば――

瞬間。

耳をつんざくような銃声が空間に響き、僅かに火薬のような匂いが辺りを包む。

視界がぼやける。

混沌とした意識。

その欠片は、消えそうな私の意識に優しく語りかけ、ヒントをひとつだけ提示してくれた。

彼女は、泣いていたのだ。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0831t/>

TRIGGER

2011年11月16日02時53分発行